

## 作半苗



# 昔も今も「作半苗」 おいしいお米は苗作りから

いよいよ平成22年の稲作がスタートします。育苗期間の注意点について確認しましょう。

### 浸種

● 浸種の適温は10℃～15℃で行い、浸種期間は水温10℃で6～8日間ほど行います。

ヘルシード消毒種子は浸種開始後3日目で最初の水を交換します(浸種適温を守りこの期間は水の循環は行いません)。これは薬剤効果を安定させるためで、その後は2～3日毎に交換します。

温湯消毒種子は、通常よりも芽の動きが早い傾向にあるので積算温度100℃を超えないようにします。水の交換はこまめに行い、催芽直前の2～3日前には毎日交換します。

また、使用する水は河川水を避け、水道水か井戸水を使用しましょう。

### 催芽

● 催芽は出芽をそろえるために行います。催芽温度は30℃で行い、芽の長さはハト胸程度(1mm程度)とします。品種により催芽時間が違うため、複数品種の同時処理は避けましょう。また、「ハト胸催芽機」での高温管理は細

菌性苗腐敗症の発生に注意して下さい。

### タフブロック

● 温湯消毒種子とタフブロックを組み合わせ使用される方は、次の点に気をつけましょう。

◆ 嵐剤の床土混和・播種時処理、TPN剤・ベノミル剤の播種時処理は防除効果が劣るので行わない。

### 育苗期管理

● 育苗期間中の温度管理によりその後の苗質へ大きく影響することがあるので、細心の注意が必要となります。詳しくは下表を参考にして下さい。

かん水は、播種時に十分な量をかん水し、ベタ張りを除去するまでは行いません。その後は床土温と外気温の差が小さい朝、または午前中にたっぷりかん水を行うことを基本とします。

### 病害対策

● 発病してからの防除では不十分となることがあるので、早期発見、早期防除が最良の防除となります。育苗施設周辺の乾燥し

		稚苗	中苗
出芽期	加温方式	育苗器を使用する場合は、30℃で48時間行う。出芽長は1cmを目標とする。	
	無加温方式	無加温で行う場合はビニールハウスまたはビニールトンネルで保温する。出芽長は0.5cmを目標とする。	
緑化期 (出芽後3日間)	昼20～25℃、夜10～12℃ 第1葉鞘長:3～3.5cm(本葉1.5葉頃) 伸ばしすぎに注意する	播種後 20日間	昼25℃以下、夜5℃以上 第1葉鞘長:2.5cm程度
硬化期	ビニールハウス等で保温 昼は開放、夜5℃以上	2.5葉期 以降	ビニールハウス等で保温 昼は開放、夜5℃以上
目標 苗形質	葉数:2.0～2.5葉 草丈:10～13cm	目標 苗形質	葉数:3.5～4.0葉 草丈:13～15cm

た稲わら、粉がらはいもち病発生を助長しますので早急に除去しましょう。また、「ばか苗病」については育苗段階での抜き取りがその後の苦勞を少なくしてくれます。その他、苗に異常が見られた場合は最寄りの営農センターまでお問い合わせ願います。